

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

新松子子は夫となり父となる

清原台6丁目 小太刀 節子

●特選の選評 新松子とはその年に新しくできた松毬のこと。松は春に花が咲き、受粉後一年以上かけて熟成した固い松毬となる。作者も結婚し子どもを授かると家族となり「子は宝」と一喜一憂しながら大切に育て続け、つい先ごろまで子どもと想っていた我が子が親の背丈を越し、頼もしくさえ思える。両親の愛情をいっぱい受けた姿に「子は夫となり父となる」と言い切れる親の安堵感と満足の気持ちが伝わって来る立派な一句である。

俳句



加茂都紀女先生

入選

我が小庭餌場を作り小鳥待つ

野沢町 渡辺 明広

農継ぎし弟も老い稲穂波

平松本町 伊藤 安

補聴器に微かに届く虫の声

花園町 小林 秀行

畳替えて深呼吸する蘭草の香

中岡本町 中沢 智子

特選

しみじみと狗尾草に時雨降る
図書館の午後独りの世界

大曾5丁目 岩淵 煦美子

●特選の選評 心に染み入るような時雨が路傍に自生する雑草、狗尾草の穂を揺らし濡れているであろうかと秋より初冬への季を感じさせる。「図書館の午後」に場所と時の設定の静寂を醸す。「独りの世界」、現在ここは我のみの平穏、無音の空間であると言いつける。外は時雨、そっと狗尾草の気配を感じたことであろう。

短歌



安野登美子先生

入選

穏やかな暮らし伝へるふるさとの
友より届く蜜入りりんご

八幡台 羽場 京子

花も葉も互ひを知らざるコルチカム
地中の球茎いかにしあらん

清原台5丁目 北市 邦子

外は雨帯状疱疹の痛さにも
負けじと歩むリハビリの杖

西川田南1丁目 砂山 公子

次世代の電車で期待感が増す
陽光が射し市街発展

弥生1丁目 大河原 信昭

特選

太陽の母と想える暖かさ

鶴田町 御牧 秀世

●特選の選評 猛暑が去りほっとしたのもつかの間、朝晩は寒さに一枚余分に着たい季節になってきた。太陽の暖かさが恋しく、それは母親の温かさにも通じるものがある。子にとっての母の温もりは心も体も包み込んでくれる優しさに満ちたものである。

川柳



佐藤隆久先生

入選

又来るね土産に愚痴をどんと置き

中戸祭1丁目 阿部 壽美江

一合で足りるふたりと仏さま

下田原町 五十嵐 由美子

年金へかあさんの知恵ありつたけ

下栗町 大塚 榮子

宇都宮ライトレールで盛り上がる

鶴田町 西宮 久

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

〒320-8540
住所・氏名・壇名
ふりがな
宇都宮市役所
広報広聴課

裏

作品への思い
作品への思い
作品への思い